

私たちが直面する敵

教会の勝利

これは、「私たちが直面する敵」というテーマの第4回、最後の学びです。「私たち」とは、もちろん、神の民、イエス・キリストの教会です。前の2つの学びでは、今日の教会が直面する2つの主な敵について学びました。最初は、**魔術**、そして、2つ目は**反キリストの霊**、あるいは**反キリストの力**です。

魔術とは、墮落した人類の普遍的な宗教であると私は定義しています。年齢を問わず、人々が、空中のサタンの反逆的王国の使いと接触を試み、何らかの方法によってそれらを神々として礼拝する手段です。反キリストは、イエスの福音がすでに伝えられたところでのみ意味を持ち、魔術とは異なる種類の霊的な力です。私は、反キリストの「反」とは、2つの意味があると指摘しました。第一に、「～に反する」、第二に、「～の代わりに」です。真のメシヤであるイエス・キリストに敵対する反キリストの霊の圧力は、イエスを排除することですが、第二の動きは、イエスを偽のメシヤに取り換えることです。みなさんに言いたいことは、その霊的な力は、こんにち教会で非常に活発に活動しているということです。私はまた、私が信じるところの、反キリストの霊、反キリスト者、獣の最終的な現われがどのようなものであるかをみなさんに少しお話していきたいと思います。

では、否定的なものから肯定的なものへと移りましょう。この最後の学びでは、教会の勝利を取り扱いたいと思います。神が備えてくださった手段によって、私たちがどのように神に従い、それらの敵に打ち勝つことができるかを示す目的とともに、私たちが直面する主な敵を簡単に定義してみましょう。最初に、次のことを理解する必要があります。聖書に沿ったすべての約束、黙示録にあるすべての約束、ご自身の教会へのイエスの最後の啓示、すべての良い約束は、勝利する者たちのためだけのものです。敗者のための約束はありません。パウロは言いました。「悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」結局、私たちには選択肢は2つしかないと思います。私たちが勝つか、打ち負かされるかです。3つ目の選択肢はありません。そして、悪に勝利を許してしまう人々への神からの肯定的な約束は一つもありません。黙示録2、3章に、7つの教会それぞれへイエスが送ったことばと、それら7つの教会それぞれへの最終的な約束は、勝利者のためのものです。勝利しなかった者には何の約束もありません。私たちはこれに真剣に向き合う必要があります。神は私たちのために勝利を可能にしてくださいました。神は私たちに勝利を期待しておられます。それは、黙示録の最後のほう、21:7に要約されています。

「勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。」

勝利者はすべてを手に入れます。勝利しない者は何も得られません。そのどちらかです。悪魔がクリスチャンの教会につきつける大きな嘘の一つは、中間的なものがあると私たちに思い込ませることであると私は思います。私は真の勝利者ではありませんが、自分が敗北するという事実を受け入れたくありません。私は新約聖書がそのような中間があることを示しているとは思いません。

では、勝利者について話します。時折、勝利者となる、と宣言する一部の新しいグループが教会内に現れます。私の50年間のクリスチャンとしての経験の中で、2、3のグループの名前を挙げるができます。「あなたが正しくなり

たいなら、私たちに加わるべきだ。」と言うグループに出会うとき、確かなことが一つあります。そのグループに加わることは間違っているということです。誰も勝利を独占することはできません。勝利とは、標語でもなく、教理でもなく、いのちなのです。

みことばとイエスへの信仰によって信じる人々は、勝利することが可能なのです。サタンの力を取り扱うにあたって、何よりもまず、そのことを理解することは非常に重要で、基本的なことです。イエスは、ご自身の死と復活を通して、完全に、永久に、最終的に、取り消すことのできない敗北を、すでにサタンに与えました。それを理解していないなら、あなたは勝利の基礎を何も持っていないこととなります。もう一度言います。完全に、永久的に、最終的で取り越すことのできない敗北です。サタンにはその事実を変えることは決してできません。イエスは息を引き取られるとき、こう言われました。「完了した。」それは、完了したのです。イエスが成されたことに何も付け加える必要もなく、何一つ取り除くこともできません。それは、コロサイ人への手紙2:13-15 で非常に明確に表明されています。それは非常に複雑ですが、すべて説明する時間はありませんので、一点のみを分かち合いたいと思います。コロサイ2:13-15 です。

「あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」

最後の節から始めましょう。ここで言われている、「すべての支配と権威」とは、前にエペソ6:12 で見たものと同じです。私たちの闘いは、サタンの王国のさまざまなレベルと序列にある、支配と権威(力)に対するものです。それこそが、私たちが戦っているものです。しかし、私たちはイエスがすでに公けに敗北を与えたことを理解する必要があります。私たちは、「凱旋」という言葉の意味を理解する必要があります。それは、ローマ帝国の文化の一部です。ローマの将軍が戦争で勝利を収め、ローマに戻ってきた時、ローマ議会はその将軍を勝利者であることを議決し、この勝利において、その将軍は白い馬が引く馬車に乗ってローマの通りを行き、ローマ中の人々が彼と、彼の勝利の数々をたたえました。その将軍が倒した支配者と指揮官は、その後ろに鎖でつながれて引いて行かれました。多くの囚人がその後ろに引かれ、時には、ローマの人々が見たことがない動物、征服した地の野獣さえ引かれていきました。これが凱旋です。それは勝利を勝ち取るためのパレードではなく、すでに勝ち取った勝利のお祝いです。そしてこの言葉でパウロが言っていることは、イエスの死と復活により、イエスは凱旋の馬車に乗って、目に見えない世界を行きめぐり、その後ろには、鎖でつながれたサタンのあらゆる力が引きずられているということです。それが勝利の完全性です。

その勝利を得るために、イエスは私たちのために2つのことを成してくださいました。簡単にそれに触れましょう。一つ目は、過去に関するものです。私たちに對するサタンの大きな武器は、罪悪感であることを心に留めておく必要があります。サタンが私たちを罪悪感にとどめておくことができる限り、私たちはサタンの敵ではないのです。しかし、十字架の勝利で、イエスは罪悪感の問題に対処しました。まず、過去に関して、イエスは私たちの過去のすべての罪が赦されることを可能にしました。先ほどのコロサイ2:13で、「私たちのすべての罪を赦し…」と言っています。「すべて」という言葉は非常に重要です。私たちが今までに犯したすべての罪が赦されたことを信じなければなりません。たとえ一つでも赦されていない罪があるなら、それは、私たちを失望させ、無能にさせるために、サタンが私たちに対し

て用いることができる手段となります。

もう一つは、さらに複雑ですが、簡単にお話ししましょう。イエスは、神の義を達成する手段としてのモーセの律法を撤廃しました。イエスは、神のことばの一部として、あるいはイスラエルの歴史の一部としてそれを撤廃したわけではありません。イエスは、モーセの律法から私たちが学ぶことのすべてを撤廃したのではなく、神の義を達成するための条件としてのモーセの律法を撤廃したのです。律法が必要条件である限り、私たちが義を宣言しようとすると、常にサタンがそこに立ち、私たちが従わなかった何かの戒律、命令を示し、このように言うことができました。「ほら見たことか。お前は義に達する権利がないのだ。」しかし、イエスが十字架で死なれた時、イエスはその側面における律法に終止符を打ちました。そして、聖書はそれを生き生きと語っています。「十字架に釘づけにされました。」(コロ 2:14)。ですから、私たちは十字架の領域に行く時、律法の下にはいません。さて、私たちの義は、戒律を守ることによるのではなく、信仰によります。私たちは信仰によって義とされました。イエスがペテロを取り扱ったことは、私にとって常に鮮明です。最後の晩餐でイエスはペテロに言いました。「鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」ペテロはそんなことはない、と言ったのですが、ご存知のように彼はその通りになってしまいました。続けてイエスが言われたことは、「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくなるように、あなたのために祈りました。」でした。あなたが信じ続けるなら、あなたの信仰があなたを助けます。ですから、決してあなたの信仰から遠ざからないようにしてください。信仰を失わず、とがめを感じさせないでください。あなたの代わりに死なれ、あなたの罪を背負い、あなたのために罪とされ、しみのないイエスの義の衣を与えてくださったその信仰から、決して離れないでください。

「義とされる」とはどのような意味でしょうか。これは、今日の私のメッセージではありませんが、非常に重要なことです。それは律法の表現です。あなたが天の裁判にかけられ、法廷は判決を下しました。判決は無罪です。なんと素晴らしいことでしょう！ 無罪です！ 「サタンよ、お前は言いたいことを言うがよい。お前は私のすべての罪と私の失敗、私のあらゆる不十分さを指摘することができ、私もそれを認める。お前が知らない私の罪さえ告白することができる。しかし、天の法廷は無罪だと言った。私は義とされ、一度も罪を犯したことがないかのように、正しいとされたのだ。」あなたがその立場に立つなら、イエスがすでに収めた勝利により、あなたはサタンという征服者以上の人物です。しかし、もし他の基礎から始めるなら、あなたは決して勝利を成し遂げないでしょう。唯一の基礎は十字架なのです。

それから、私たちに對するサタンの武器を奪います。大きく絶対的なサタンの武器の一つは罪悪感ですが、イエスはそれに打ち勝つ武器を私たちに与えてくださいました。それが2つ目の部分です。Ⅱコリント 10:3-5 です。妻と私はいつもこの告白をしており、今みなさんと一緒にそれをしたいと思います。私と妻は 50 ぐらいの聖書箇所を選び、それらを私たちの靈的戦いの一部として宣言しています。これはその一つです。

「私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ・・・」

何という勝利でしょうか！

このように、私たちの武器は肉の物ではありません。では、何ですか。靈的なものです。つまり、私たちは肉体を持った人間と戦っているのではないので、私たちは爆弾や戦車、ライフル銃などを使うではありません。そのようなもの

は役に立ちません。私たちには、物理的、形のある武器の代わりに、使うことのできる霊的な武器が与えられています。そして、これこそが、要塞を破るために私たちが用いることのできる物です。誰の要塞ですか。そう、サタンです。次の節については、様々な翻訳があり、議論、推論、推測があるでしょう。それは、思いと知識について語っています。そう、私たちは戦場を見いだしました。戦いの場が何であるかを知ることはとても重要です。それは、「思い」です。それに気づいていच्छる人はどれくらいいるのでしょうか。私たちクリスチャンの問題のほとんどは、思いの領域にあるのです。がっかりしないでください。そこが戦いのある場所なのです。しかし、私たちには勝利の武器が与えられています。そして、私たちはサタンの要塞、妨害を破ることができるのです。ご存知のように、福音の真理を受け取られることを妨げるために、サタンは人の思いの中に要塞を築き上げます。そして、私たちの働きの一つは、神が私たちに与えてくださった霊的武器を使うことです。祈り、メッセージ、賛美などは、それらの要塞を打ちこわし、人々を救い、人々を変えるために入って行き、神のことばへの道を開きます。

たとえば、前のセッションで、ユダヤ教徒イスラム教という2つの反キリスト教の力を取り扱いました。どちらにも、打ち壊さなければならない特定の要塞があります。ユダヤ教の思いの要塞は、「もし私がイエスを信じるなら、私はユダヤ人でなくなる。」です。あなたはそれに気づいていないかもしれませんが、それが、彼らがイエスについて真理を受け入れることに対する最強の壁なのです。ムスリムの要塞は、「神には息子が必要でない。神の子は存在しない。」です。もしあなたが、ユダヤ教徒やムスリムに効果的に伝道しようとするなら、彼らに実際的なインパクトを与える前に、それらの要塞を打ち壊すために、これらの霊的武器を用いなければなりません。

私たちは勝利のための武器を持っています。究極の目的は、あらゆる思いを、キリストへの従順の中へと導くことです。それは驚異的な任務です。第一に、私たちは人々の思いをサタンの偽りの束縛から解放しなければなりません。それから、彼らの思いにイエスへの従順の中へと導かなければなりません。それは素晴らしいことです。私たちは、それをするために武器が与えられているのです。今日は、その武器についてお話するわけではありません。そのテーマについてはこれまでかなり語ってきました。今日は、教会が勝利あるものとなるための基本的条件を取り扱いたいと思います。

その条件を簡単に取り扱います。7つをリストアップしました。あなたはそれを8つにすることも、6つにすることもできるでしょうが、私はメッセージのアウトラインを作る時に、通常は7つにとどめるようにしています。

マタイ 12:25 を開けましょう。これは、イエスによる非常に重要なことばです。私は、教会がそのことをよく忘れてしまっているのではないかと思います。イエスは言われました。

「どんな国でも、内輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。」

私たちは神の国について話してきました。しかし、もし神の国が内輪もめするなら、神の国は勝利することができません。ですから、サタンの教会への主な攻撃は、私たちを分裂させることです。それは成功してきたでしょうか。これを言うのは残念ですが、サタンは大きな成功を収めてきました。私たちが何よりもしなければならぬことは、分裂を阻止することです。それは、クリスチャンと呼ばれる全員が、あるいはすべての事に自動的に賛同するという意味ではありません。しかし、聖書を信じ、イエスを愛し、イエスに仕える真の信者がいるなら、他の教会、教団、教派も私

たちの兄弟姉妹であることを認めなければなりません。そして、私たちは彼らと私たちの間に不必要な壁を作ってはいけません。

妻と私は、自分たちのミニストリーにおいて、世界中で様々なミニストリーや人々とともに働いてきました。そして、基本的に、私はその人々たちとの関係には何も問題がないと言うことができます。その根本的な理由は、彼らと私たちは、肯定的な物事に献身しているからでしょう。そして、私たちはマタイ 24:14 に仕えています。「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」 すべての国々に神の国の福音を宣言することによって、主の道を備えるこのことが私たちの責任であると考えています。聖書に基づいたその第一の目的を持った人々に出会うなら、私たちは一度も会ったことがなくても、10 分以内にずっと前から彼らを知っていたように感じるのであります。

ですから、否定的なことではなく、肯定的なことにフォーカスしましょう。あなたは、人々が祈りととりなし、あるいは伝道に献身しているところでは、壁はなくなると気づくでしょう。人々がみな、教会の組織とプログラムに忙しすぎる場所では通常問題があります。ですから、まず私たちがしなければならないことは、分裂を警戒することです。それは容易ではありません。確かに、私たちがすべての答えを持っているわけではありませんが、そのことを優先するなら、私たちはそれを達成することにさらに近づくでしょう。

それから、私たちがしなければならないことの 2 つ目は、ものすごく重要なことですが、神のことば全体を知り、宣言することです。Ⅱテモテ 3 章を開きましょう。これは、最近私にとって非常に意義深いものとなっています。なぜなら、それは終末の様子だからです。Ⅱテモテ 3:1 から始まります。

「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。」

この 3 章全体は、終わりの日に特に関連することを取り扱っています。最初に、終わりの日が近づくと、人間の性質と行ないが一般的に退化する様子が描かれています。パウロは、この終わりの時代に人類を特徴づける 18 の主な道徳的、倫理的汚点を挙げています。そして、それらの根っこはすべては自己中心なのです。自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者。その 3 つ以上に現代文明をより明確に表現する言葉を私は知りません。他のものはすべて、その範疇にあります。

主要な敵は自己中心です。そのことを心に留めておく必要があります。なぜなら、薬物やアルコール、不道徳にふけないという事実が、必ずしもこの世から私たちを分かちののではないからです。本当に私たちをこの世から分かちるのは、自己中心ではないこと、他者を立てることです。道徳的、立派な生き方をしきちんと教会へ通う人々の多くは、基本的にとても自己中心的であると私は思います。それを第一とするからです。私たちは、それが今日の教会特有のしるしではないことを理解する必要があります。教会特有のしるしは、仕えるため、しもべとなるために神と人に献身する、「非自己中心」です。

パウロは続けて、終わりの時代の様々な他の特徴を指摘しており、そのうちのいくつかはあとで見ます。パウロは非常に明確にオカルトの急激な高まりを描いており、それはまた、私たちの時代にとっても顕著で、パウロは私が信じる神

の答えを3章の最後にも書いています。16節から始まります。

「聖書はすべて、神の靈感によるもので…」

どれほどのみことばでしょうか。すべてです。自信がありますか。それについて多くの人は、自信がありません。神を正すこと、聖書で変更する必要があるところを見つけて編集することが、自分の仕事であると信じている説教者が多くいます。私はその立場にはいません。私は、信じると言います。

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

神の民が完全に整えられるために、わずかの聖句だけでなく、聖書のすべての真理が神の民に提示されなければならぬと私は理解しています。あなたは、エズラ書に何が書いてあるのかを知らなければなりません。アモス書の教えを知らなければなりません。ピレモンへの手紙を理解しなければなりません。なぜなら、それらはすべてあなたが完全に整えられるためのものだからです。もし、あなたが完全に整えられようとするなら、あなたはおそらくテレビの前にいる時間を減らさなければならぬでしょう。なぜなら、クリスチャンの奉仕のために完全に整えられるとは、相当なフルタイムの仕事であるからです。

その章をそこで分割したのはパウロではないことを知っておいてください。パウロは続けています。4章1節から読みます。

「神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思って、私はおごそかに命じます。みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

率直な質問をしましょう。みなさんの中でどれくらいの方が、責められ、戒められ、勧められることを期待して日曜日に教会へ行くのでしょうか。もし、教会があなたをそのように取り扱ったなら、二度とその教会へは行かない人もいます。しかし、もし牧師が自分の仕事をするなら、それはあなたに起こることです。これは、私たちが生きている時代において何と真実なことでしょうか。

「というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。」

私は、これは西洋の教会で顕著であると思います。彼らをくすぐるような興奮させるような新しい何か、新しい教理や新しい啓示がなければならないというクリスチャンがあまりにも多くいます。しかし、それは私たちの仕事ではありません。私たちの仕事は、みことばを宣べ伝えることです。そして、パウロは、この部分をこうまとめています。

「しかし、あなたは、どのような場合にも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たさない。」

私は、これほどまでに、聖書の絶対的真理と絶対的権威をしっかりと握ることが、より重要である時代があったとは思いません。私たちは予期しない四方八方から攻撃され、むしばまれています。私たちが信仰に立っているとみなしてきたムーブメントや教会、団体は、この数十年でその土台からずれてしまいました。

使徒の働き 20:27 のパウロのことはばを見てみましょう。

「私は、神のご計画の全体を、余すところなくあなたがたに知らせておいたからです。」

私は、「余すところなく」という言葉に感銘を受けました。なぜなら、神の計画全体を宣言させないようにする多くのプレッシャーがあるということを暗示しているからです。それは真実でしょうか。社会的プレッシャー、経済的プレッシャー、教派のプレッシャーなど。あなたが有名になりたくないなら、簡単に神のことはば全体を宣言しないことが、最も早い方法であるかもしれません。しかし、私たちには、最終的に神に対して責任があることを覚えておいてください。パウロは言いました。

「あなたがたの血は、あなたがたの頭上にふりかけられ。私には責任がない。」

パウロは、エゼキエルへの神のことはばのことが頭にあったのではないのでしょうか。

「わたしはあなたをイスラエルの家の見張り人とした。角笛の音を聞きながら、警告を受けなければ、その血の責任は彼自身に帰する・・・しかし、警告を受けていれば、彼は自分のいのちを救う。しかし、見張り人が、剣の来るのを見ながら角笛を吹き鳴らさず、そのため民が警告を受けないとき・・・わたしはその血の責任を見張り人に問う。」

パウロはその理由からこう言ったのだと思います。「あなたがたの血は、あなたがたの頭上にふりかけられ。私には責任がない。私は神のご計画全体を、余すところなくあなたがたに知らせておいたので、誰の血も私の扉に塗られることはない。」

3つ目の条件は、非常に重要であると思います。I ペテロ 5:5-6 に書かれています。

「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。」

近年、教会では、従順について多く語られており、私は、従順には聖書的基礎があると信じます。私は、従順において重要なことは、従順な態度であると語ります。たとえ、あなたが同意しなくても、あなたは従順であり得ます。それは、行動の規則と言うより、むしろ態度の問題です。

ペテロは言っています。「みな互いに謙遜を身に着けなさい。」それは、イギリス人からは出てこない比喻です。パ

ウロが使っている言葉の意味は、「謙遜のエプロンを着けなさい。」です。エプロンとして使われている単語は、奴隷だけが着るエプロンです。つまり、あなたがそのエプロンを着けていたら、だれもがあなたは奴隷であるとわかるのです。ですから、パウロは、すべての人の奴隷であることを示す、その謙遜の態度であるエプロンを、あなたは着けなさいと言っているのです。先ほどの続きの聖句です。

「神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。」

謙遜は、神が私たちのためにできるものではないことを、私は常々言っています。神は決して、「私はあなたをへりくだらせます。」とは言わず、常に、「あなたはへりくだりなさい。」と言います。それは、決断です。私たちは、へりくだる決断をしなければなりません。

そして、自分をへりくだらせる一つの方法の注目すべき例が、エズラ 8:21-23 にあります。エズラとバビロンからエルサレムに戻る捕囚の一团は、4か月もかかる非常に危険な道のりに直面していました。彼らはみな、宮のあらゆる高価な器を携え、妻や子どもたちも一緒にいましたが、エズラは、ペルシャ皇帝からの護衛軍を拒否しました。エズラは言いました。「私たちは神に信頼する。」エズラは、神に仕える者たちを神が守ってくださることを証言したので、そうしなければならなかったのです。このように、それは証言の祝福の一つで、あなたが証言する時、あなたは自分のあかしに生きなければなりません。ですから、エズラは部隊と騎兵の一团を求めず、こう言いました。

「そこで、私はその所、アハワ川のほとりで断食を布告した。それは、私たちの神の前でへりくだり、私たちのために、私たちの子どもたちと、私たちのすべての持ち物のために、道中の無事を神に願い求めるためであった。」

これは、まったく聖書的です。それについて詳しくお話する時間はありませんが、自分をへりくだらせる指定された一つの方法は、断食によるものです。ダビデは、詩篇 35:13 で言いました。「私は断食してたましいを悩ませ…」なぜ、あなたのたましいをへりくだらせる必要があるのでしょうか。なぜなら、それは横柄な自己本位の自我があなたのうちにあるからです。自我はこう言うのです。「私はこうしたい、私はこう思う、私はこう感じる、私は重要だ、私を見てください。」ですから、私たちの人生に神の道を本当に持つことができるようになるには、へりくだらされなければならないのです。

このことを話すとき、いつも思い出すのは、ワシントンDCの ある弁護士のことです。彼は私の断食の教えを聞きました。彼はクリスチャンで、断食をしようと決めました、彼は悲惨な一日を送りました。レストランや食料品店の前を通り過ぎるたびに唾液が出て、お腹が鳴り、店に入りたくなくなりました。しかし、断食をやめることなく、その日を終えました。その夜、彼は自分の胃袋に言い聞かせました。「さあ、胃袋よ、今日は本当に大変な一日で、私もお前のせいで大迷惑だったよ。罰として、明日も断食をするよ。」

それが、どのように私たちの自己主張を取り扱わなければならないかです。私たちは、自分の思いを神のみこころと思いに従わせなければなりません。断食の実践を聖書的な方法で学ばないクリスチャンは、神の完全な勝利を手に

することができないと思います。イエスは、断食で完全な勝利を得ることはできませんでした。イエスは、40日間の断食によって働きを始めました。あなたは自分がイエスを追い越していると思いますか。イエスは弟子たちに、もし断食をしたら、とは言わず、あなたが断食をすれば、と言われたのです。イエスは、マタイ6章の祈りについての説教で、断食についてまったく同じ言葉を使っておられます。イエスが、私たちが祈ることを期待しておられるなら、断食することも期待しておられるのです。

さて、あなたは自分でそれを解決しなければならず、どのような方法でそれを行なうかを聖霊から知る必要があります。しかし、妻と私は、もし定期的に断食をしなかったら、自分たちのミニストリーをあえて前進させることはない、言いたいのです。なぜなら、私たちは今日の世界でサタンの主な力のすべてに正面から挑んでいるため、私たちは神からのあらゆる助けが必要であるというチャレンジを受けているのです。そして、一つの方法が断食です。私は『成功する断食』という小冊子を持っています。私はラジオで一週間の断食の教えをしており、今は時間がありませんので、興味がある方は、それを聞くことができます。

続けましょう。次にしなければならないことは、神のすべての武具を身に着けることです。エペソ6章を開きましょう。空中のサタンの王国について語っている12節のすぐ後で、パウロは言っています。

「ですから…神のすべての武具をとりなさい。」

あなたは武具を身に着けなければなりません。それは自然に身につくものではありません。神があなたに着せるのでもありません。あなたが着けなければなりません。パウロは、みなさんや私のようなクリスチャンであった人々に宛てて書いています。それらの武具を着ける責任は、クリスチャンにあると言っているのです。そして、その武具をざっと見ると、14節-真理の帯、正義の胸当て、15節-福音の備えの靴、16節-信仰の大盾、17節-救いのかぶと、御霊の剣です。それを分析してみると、あなたは頭のとっぺんから足の裏まで完全に守られています。唯一、背中以外は。そう、あなたが背を向けるなら、守りはありません。それを覚えておくことは重要です。

しかし、それは完全なリストではありません。そこには6つの武具があり、聖書では通常完全に素晴らしいとされるのは、7です。次の一つは、おそらくその6つと同じくらい重要なもので、18節、「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。」すべての祈りの武器について教えたのは、チャールズ・ウエスレーであったと思います。そして、実にすべての祈りは、私たちが空中に届き、その拠点であるサタンの王国を攻撃できる武器です。ほかのものは、主に自己防衛の武器です。しかし、すべての祈りは、私たちの大陸間弾道ミサイルです。もし、私たちがコンピューターを正しく設定するなら、そのミサイルはどんな標的にも、どこへでも達することができます。

次に私たちがしなければならないことは、私たちが神の超自然の力を必要としていることを認識することです。私は超自然と言いたいのです。キリスト教は、超自然の宗教です。私はかつて使徒の働きを全部読んで、明らかな超自然の箇所をすべて取り除くと、何が起こるかを調べました。単に内側の超自然のものではなく、目に見える、感覚によって知ることのできるものです。使徒の働きは28章あり、私が発見したことは、超自然を除外するなら、28章のうち1章たりとも損なわれずに済む章はないということです。そして、それは、どのように教会が機能するかが記録されている唯一のものなのです。私たちは、自然の能力だけでは、効果的に機能することができず、神のみこころを達成する

ことができません。私たちは聖霊の超自然の手段を手にしなければなりません。そして、それを可能にする一つの主な形は、I コリント12章にリストアップされている聖霊の超自然の賜物です。私が言っていることをまさに要約しています。I コリント 4:20 です。

「神の国はことばにはなく、力にあるのです。」

それは、神学の問題ではありません。神学には、その立場があります。それは、議論の問題ではありません。知的な証明の問題でもありません。それは、神の超自然の力の立証です。I コリント 2:1-5 のパウロのことばを見たいと思います。

「さて兄弟たち。私があなたがたのところへ行ったとき、私は、すぐれたことば、すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。」

ガラテヤ3章で言ったことを覚えていますか。魔術は教会から何を隠しましたか。イエス・キリストの十字架です。パウロは言いました。「なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。」

私は、最近エルサレムで多くのユダヤ人を含む会衆に向かって話し、ユダヤ人の中で一般的に最高に尊ばれるものが、知識であることを指摘しました。すると、一人のユダヤ人がこう言ったのです。「私はイエス・キリストとその十字架以外には、何も知らないことに決めました。」(これはかなり珍しい現象です)。先ほどの続き、I コリント 2:3 からです。

「あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました。そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした。」

それは、力でした。それがパウロの秘訣でした。なぜ、聖霊は力によって彼のミニストリーを証明したのでしょうか。パウロがイエス・キリストの十字架にフォーカスしていたからです。あなたはあらゆる素晴らしいメッセージや理論を提示したり、様々な医者や人々を引き合いに出したりすることもできますが、聖霊はただ退屈しています。しかし、あなたが十字架のイエスを引き上げ始めるとき、神は言われます。「私は、そのあかしをもたらします。」

私は、それが今日の教会に何よりも必要なことであると思います。特に、今日ムスリムに囲まれている国においては、あなたはそれに気づいているでしょうか。何百万人もムスリムがいます。そして、超自然の現れ以上にムスリムの思いに届くことのできるものは何もありません。私たちには機会があります。彼らのところに行かなくても、彼らが私たちのところに来てきています。私たちは彼らの国に行き、福音を宣言することはできません。なぜなら、刑務所に入れられるか、処刑されるからです。しかし、神は彼らが私たちの国に来るようにされました。教会はそれについて何をしていますか。今こそ、教会が立ち上がり、「私たちは彼らにイエスが生きておられることを示す。」と言う時です。

では、Ⅱ テモテ3章を開きましょう。いくつかを示したいと思います。覚えておいてください。これは、すべて終わりの日についてです。それが、この章の全体的テーマです。8節でパウロはこう言っています。

「また、こういう人々は、ちょうどヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、真理に逆らうのです。彼らは知性の腐った、信仰の失格者です。でも、彼らはもうこれ以上に進むことはできません。彼らの愚かさは、あのふたりの場合のように、すべての人にはっきりわかるからです。」

つまり、パウロが言っていることは、パロの宮殿で行なわれたモーセとエジプトの呪法師たちの不思議のしるしの競争が、イエスのしもべとオカルトの専門家の間で、今日再現されるであろうということです。そしてそれは、神学による解決ではないでしょう。それはどちらが偉大か、という力の競争です。そしてエジプトの呪法師たちが多くの力を持っていたことを心に留めておいてください。モーセが行なった最初の3つのしるしは、彼らにも真似できました。彼らは杖を蛇に変えることができました。水を血に変えることができました。川からカエルを這い上がらせることができました。それらはみな超自然です。しかし、それ以上のことをモーセが行なったとき、呪法師たちは「これは、神の指です。私たちの力を超えています。」と言いました。

あなたが、モーセについてどのように思っておられるかわかりませんが、私は特にモーセとアロンが好きです。彼らは杖を持ってパロのところに行くと、パロは言いました。「あなた方ができることを見せてみなさい。」私が思うに、アロンが杖を投げ、それは蛇に変わりました。なんと、パロはあまり驚きませんでした。ですから、パロは呪法師たちに、「お前たちにできるか。」と聞きました。そして彼らは、「できます。」と言いました。彼らが自分たちの杖を投げると、それらは蛇になりました。しかし、それ以上のことがもう一つ起こりました、モーセの蛇は呪法師たちの蛇を飲み込みました。あなたはその後場面について考えたことがありますか。呪法師たちは杖を持たずに去って行き、モーセの杖は以前より太く強くなっていました。そのようになるのです。お分かりですか。誰の杖が勝つかということです。人々が私に同意しないとき、私は言います。「聞いてください、議論しないようにしましょう。私たちの杖を投げて、どちらの蛇が勝つかを見ましょう。」実に、そのようなことなのです。それは議論ではありません。立証です。それが必要なのです。特に、御霊の賜物において、私たちには3つの啓示的な賜物が必要です。知恵のことば、知識のことば、そして霊の見分けです。知識のことばは、どのようにサタンが超自然の領域の中で働いているかという、サタンの活動を私たちに示します。知恵のことばは、どのようにサタンの行動に対処し、サタンを打ち破るかを私たちに示します。そして、霊の見分けは、私たちが悪魔的な力と活動に直面するときを私たちに示します。それらは、今日の教会に本当に必要なことです。

先へ進みましょう。次のポイント、私のノートでは6つ目に私たちがしなければならないことです。私たちは喜びの賛美と大胆な宣言の力を適用しなければなりません。私のお気に入りとなった一つのみことばは、エレミヤ 31:7 です。これは、終わりの日のイスラエルの回復についてです。

まことに主はこう仰せられる。「ヤコブのために喜び歌え。国々のかしらのために叫べ。告げ知らせ、賛美して、言え。『主よ。あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』」

ここで、私たちが理解しなければならない、決定的な3つの武器、あるいは3つの活動について語られています。それらは、賛美、宣言、祈りです。祈りはこうです。「主よ。あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。」主

は、ご自身がイスラエルの残りのものを救うと宣言されました。私たちの祈りなしでも、主にはそれができるとあなたは言うかもしれません。しかし、神は別の箇所で言っています。「あなたがたが呼び求めるなら、わたしはそれをしよう。」お分かりですか。祈りはこの地における神の目的の働きへの私たちの貢献です。そしてある人が言いました。神は私たちが必要とすることを選んだと。神は私たちなしでも、おできになります、そうはされないのです。

しかし、祈りは単に私たちの願いを求めただけではありません。祈りは、聖書に啓示されている神の目的を発見することです。そして、その目的がなされるために祈るのです。処女マリヤのこぼれに実に美しく要約されています。み使いが約束をもって来たとき、彼女は言いました。「あなたのおこぼれどおりこの身になりますように。」それは、あなたが祈ることのできる最も力強い祈りです。パウロは言いました。「私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方。」どのようにでしょうか。みこぼれを成就することによってです。神が聖書で約束されていることは、私たちの人間的な思いで求めたり考えたりできることをはるかに超えているのです。

ですから、祈りは買い物リストを持って神のところに行くようなものではありません。祈りは、賢く神の目的を見出し、私たち自身がそれに結びつくことです。

それには時間がかかります。あることのために、妻と私は10年間祈っています。まだそれは起こっていません。それが起こるとき、信仰によって、あるいは不信仰によって祈っているかがわかるのです。なぜなら、もしあなたが不信仰によって祈るなら、「私は10年も祈っているのに、何も起こらない。」と言います。しかし、信仰によって祈るなら、「私が祈り始めた時より、答えは10年近づいている。」と言うのです。

イエスは言われました。「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。」私は妻を見ていて、これは大きなテストの一つで、クリスチャンの性質を形成する道具であると発見しました。それは、祈り続けることで、神のみこぼれを発見し、神がなされると言われたことをするために神に祈るのです。

それから、賛美です。詩篇102篇です。これは再び、この時代の終わりにシオンを回復するという預言で、その預言の後に18節で言われています。

「次のことが、後の時代のために書きしるされ、新しく造られる民が主を賛美しますように。」

私は、シオンの回復の時を言っていると信じます。神は、一つの最高の献身をする民を造られます。何をするためでしょうか。そう、神を賛美するためです。まるで、神が「私の民は私が望む賛美をすることにおいて、何世紀もの間、あまりにも怠慢であった。だから特に私を賛美するために、新しい民を造ろう。」と言っているようです。そして、私は、カリスマ・ムーブメントはその始まりだと思えます。カリスマ・ムーブメントには多くの弱点と失敗があると思いますが、少なくとも賛美が何であるかというビジョンにおいて、新しい賛美のレベルが現れてきました。神を賛美することは、なんと重要なのでしょうか。

詩篇8篇でダビデは言っています。

「あなたは幼子と乳飲み子たちの口によって、力を打ち建てられました。それは、あなたに敵対する者のため、

敵と復讐する者とをしずめるためでした。」

イエスがマタイ 21:16 でそれを引用したとき、イエスは、**力を打ち建てる**という言葉と、**賛美を用意された**と変えています。神の民が打ち建てる力は何ですか。賛美です。それは何をしますか。誰を黙らせますか。敵と復讐する者です。私たちはなぜサタンを黙らせなければならないのでしょうか。サタンがずっとしていることは何ですか。私たちを非難することです。あなたは、「なぜ、神は私たちを非難するサタンを止めないのか。」と言うでしょう。なぜなら、神はこう言われます。「私はあなたにサタンを止める手段を与えました。あなたが、私が望む私への賛美の方法を学ぶなら、それがサタンを黙らせるのです。」

何年か前、スイスのローザンヌでフランス語通訳を介してメッセージをしていました。私はこのことを引用し、フランス語に訳されました。私はフランス語が分かり、そのフレーズに引き付けられました。それは、「**賛美は、敵と復讐する者を沈黙させる。**」です。私たちがサタンに沈黙を強要できるとは、なんと素晴らしい啓示でしょうか。私たちは、サタンに「黙れ！」と言うことができるのです。それはすごいことです！どのようにするのでしょうか。賛美によってです。もし、神の民が時間を取って神を賛美することを学び、きよい心で神を賛美するなら、周りのすべての状況が変わるのです。人々の心は開かれるでしょう。人を縛っている暗闇の力は揺るがされ、追い払われます。私たちは、ただ賛美の力という壮大な海のふちに立つだけです。

そして、エレミヤ 37 章に戻りましょう。宣言、これは、この 2、3 年に、神が妻と私のために新しい方法を刺激し始めたものです。ご存知のように、宣言は、実におふれを出すものの活動です。新約聖書ではメッセージを語る者に使われている単語は、使者(おふれ役)です。パウロは、神は彼を教師、使徒、宣教者と任命されたと言いました。私はラジオ番組を始めて以来、みことばの真理を宣言するだけで達成しうることのビジョンが、さらに増し加えられました。私たちはイスラムについて話してきていますが、イスラムの大きな力の一つは、13 世紀以上もの間、日に 5 回モスクからアッラーとムハンマドについての宣言がなされ、それにより国々の上に暗闇が造られたということです。あなたが、宣言の力を経験したことがないなら、その力をまったく理解できないでしょう。それは何でしょうか。偽りの宣言の力です。私たちは、真の宣言の力によって、その力に勝利する必要があります。私たちは、真理を宣言する必要があります。ご存知のように、妻と私は宣言に用いるみことばの兵器庫を持っています。そして、私たちはそのみことばの多くを一週間に数回宣言します。

申命記 33:25-27 を開いて、少し実践を分かち合いましょう。私たちはみことばを宣言するとき、聖書の中で「あなた」となっている部分を「私たち」に置き換えて言いましょう。

「私たちのかんぬきが、鉄と青銅であり、私たちの力が、私たちの生きるかぎり続くように。「エシュルンよ。神に並ぶ者はほかにない。神は私たち助けるため天に乗り、威光のうちに雲に乗られる。昔よりの神は、住む家。永遠の腕が下に。私たちの前から敵を追い払い、『根絶やしにせよ』と命じた。」

次は一節だけです。Ⅱコリント 9:8 は、私たちのミニストリーの経済的備えのための私たちの信仰の基礎です。同様に、あなたがたを私たちに換えて言いましょう。

「神は、私たちを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」

あなたがこれを毎日言う時、あなたは欠乏を恐れることができるでしょうか。注目すべきは、恵みです。それをあなたにお伝えしたいのです。あなたはそれを労苦して手に入れるのではなく、それを信じなければなりません。

教会が勝利あるものである条件の最後のポイントです。黙示録 12:11 です。

「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しなかつた。」

これは、実に宣言のもう一つの例です。イエスの血潮が私たちにしてくださったことを、みことばが何と言っているかを個人的にあかしするとき、私たちはサタンに打ち勝つ、という意味であると私は教えています。私たちはそれを宣言します。私は 7 度宣言をします。あなたがそれをするとき、あなたはサタンに打ち勝ちます。しかし、あなたは、ある種の人にならなければなりません。これらの人々は、「彼らは死に至るまで自分の命を惜しなかつた」人々だと言っています。どういう意味でしょうか。それは、こうです。生きたままにいるよりも神のみこころを行うことの方が彼らには重要であった。それは何でしょうか。献身です。サタンは中途半端なクリスチャンを恐れてはいません。サタンは、結局はそのようなクリスチャンに勝つことができるからです。しかし、主を否定したり、自分のあかしを撤回したりするのではなく、自分のいのちを投げ出す準備ができていないクリスチャンは、勝利者です。アーメン。祈りましょう。教会や私たちのために祈りましょう。

神さま、あなたのことばが勝利のため、そして勝利のすべての栄光ある可能性のための条件を私たちに、明確に示してくださったことを感謝します。主よ、多くの時にあなたを信じず、また従わなかつた私たちの罪と至らなさを告白します。主よ、私たちを赦してください。私たちのため、そして、イエス・キリストの全教会のために。また、主よ、あなたの聖霊の力によって、私たちがあなたの栄光のために勝利者たる条件を満たすものとしてください。イエスの御名によって。アーメン。